

氏名	森 繁 広
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 乙 第 2834 号
学位授与の日付	平成 6 年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	網膜色素上皮障害の脈絡膜循環に与える影響 第 1 報 オルニチン投与による 4 週までの変化 第 2 報 オルニチン投与による慢性期の変化
論文審査委員	教授 増田 游 教授 菅 弘之 教授 佐々木順造

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

- 第 1 報 網膜色素上皮の障害が脈絡膜循環に与える影響を調べるために、オルニチンを用いて網膜色素上皮障害モデルを作成した。脈絡膜組織血流量を水素クリアランス法により測定し、組織所見と対比して検討した。脈絡膜組織血流は、注入 3 日後において、有意に減少しており、4 週後まで減少傾向を示した。網膜色素上皮に変性が生じ脈絡膜に変化を認めない時期に脈絡膜組織血流量が減少を示したことにより、網膜色素上皮が脈絡膜の循環に関与している可能性があり、それに続発した網脈絡膜変性によりさらに血流量が減少したと考えた。
- 第 2 報 網膜色素上皮の長期間の障害が脈絡膜循環に与える影響を調べるために、網膜色素上皮障害モデルを用いて、オルニチン硝子体内注入 3 ヶ月後、6 ヶ月後の脈絡膜組織血流量を水素クリアランス法により測定し、組織所見と対比して検討した。脈絡膜組織血流量は、3 ヶ月後、6 ヶ月後ともに有意に減少していた。そして、それは網膜色素上皮の変性に続発した脈絡膜の器質的変化が主な原因と考えた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、網膜色素上皮の障害で網脈絡膜変性が生じ、長期の障害では網脈絡膜の器質的変化が起こることを、脈絡膜組織血流量と電顕的所見を経時的に観察して明らかにした

価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。